

ATHENA SOURCES IN THE HISTORY OF WORLD WAR II

PICTORIAL HISTORY OF THE SECOND WORLD WAR

写真で見る 第二次世界大戦の経過とアメリカ軍の活動



アメリカで刊行された第二次世界大戦の写真記録集
二面戦争の状況がよくわかる時系列構成と、アメリカ軍の組織別構成からなる
大型資料で、太平洋戦争記録多数！ 日本史研究資料としても重要！

全10巻・c. 4530 pp., incl. 49 col.・B5判

第1回配本 Volumes 1-5 5巻 c. 2560 pp.

定価 本体 175,000円+税 ISBN978-4-86340-297-3 2019年11月刊行

Vol. 1	The First & Second Year	978-4-86340-298-0	35,000円+税
Vol. 2	The Third & Fourth Year	978-4-86340-299-7	35,000円+税
Vol. 3	The Fifth Year	978-4-86340-300-0	35,000円+税
Vol. 4	The Sixth Year	978-4-86340-301-7	35,000円+税
Vol. 5	A Year of Victory	978-4-86340-302-4	35,000円+税

第2回配本 Volumes 6-10 5巻 c. 1970 pp., incl. 49 col.

定価 本体 175,000円+税 ISBN978-4-86340-303-1 2020年11月刊行

Vol. 6	Navy	978-4-86340-304-8	35,000円+税
Vol. 7	Air Force	978-4-86340-305-5	35,000円+税
Vol. 8	Marines Corps	978-4-86340-306-2	35,000円+税
Vol. 9	Ground Forces	978-4-86340-307-9	35,000円+税
Vol. 10	Service Forces	978-4-86340-308-6	35,000円+税



Athena Press

本書について

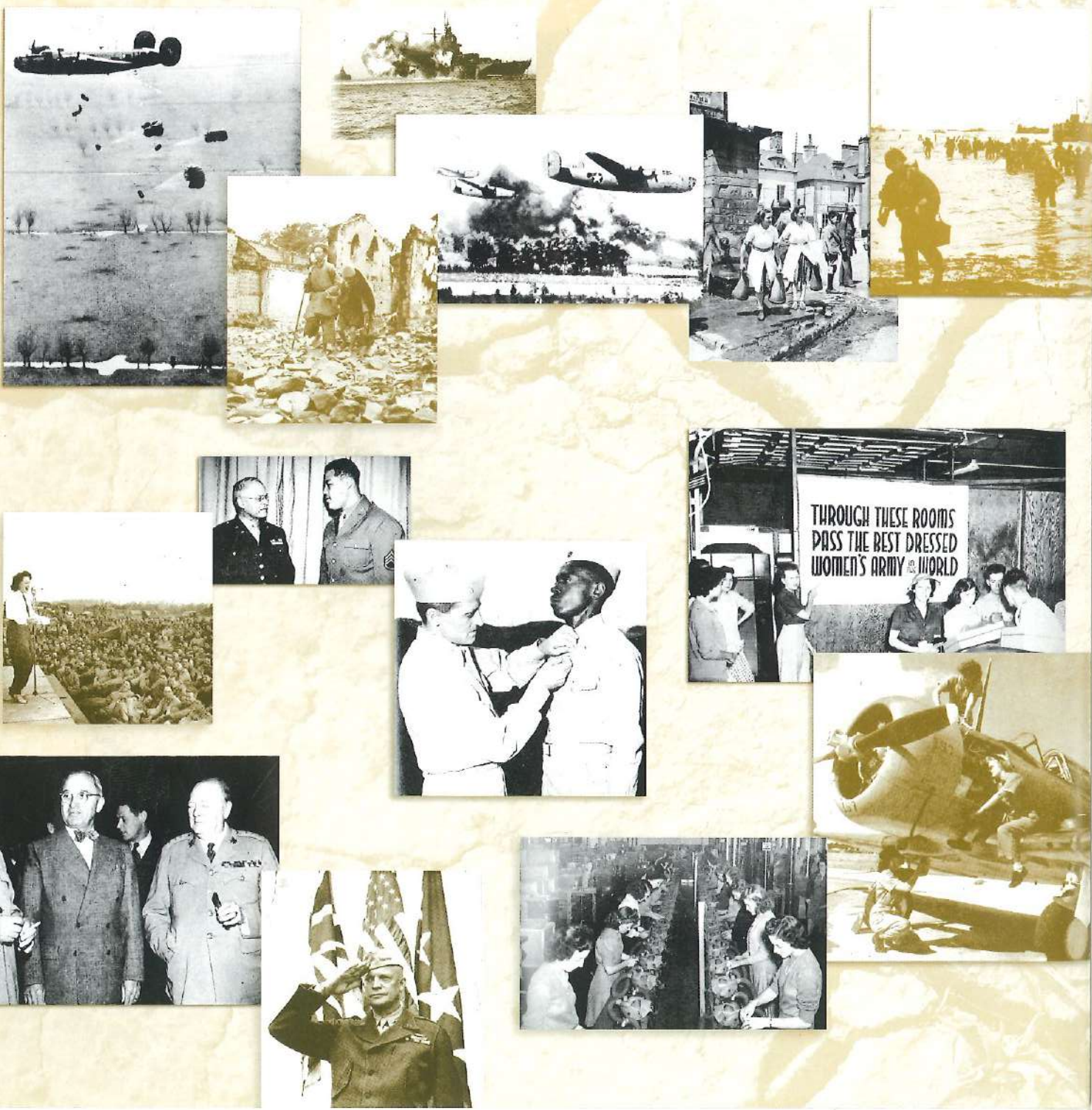
第一次世界大戦の報道関連資料復刻に続き、第二次世界大戦の資料復刻 *Athena Sources in the History of World War II* に取り組みます。イギリスとアメリカで、戦時中ないし戦後間もない期間に刊行された図版資料を扱っていきます。

この *Pictorial History of the Second World War* は、一般向け参考図書の版元として知られるニューヨークの W. H. ワイズ社から、1944 年から 1949 年にかけて全 10 巻で刊行されました。

第 1 回配本の 5 巻はあらゆる戦域での活動の写真記録で、戦争の経過に沿って配列されています。第 1 巻から第 4 巻まで (1944 年から 1946 年の刊行分) は 1939 年 9 月から 1945 年 8 月までの戦争中の 6 年間を扱っています。第 5 巻 (1946 年刊行) は戦後の状況を扱い、さらに戦時中の検閲によって公表されなかった写真を掲載しています。また第 1 巻から第 5 巻までを通じた索引が付けられています。

第 2 回配本の 5 巻は 1946 年から 1949 年にかけて刊行され、第 5 巻と同様に戦後新たに公表された写真を掲載したものです。アメリカ軍の組織ごとに各巻が構成され、第 6 巻：海軍、第 7 巻：空軍 (陸軍航空軍)、第 8 巻：海兵隊、第 9 巻：陸軍 (陸軍地上軍)、第 10 巻：各支援部隊となっています。また各巻個別に索引が付いています。

最初の 5 巻の典拠は多様ですが、後半の 5 巻の記事は軍関係者の執筆、編集によるもので、何千枚もの写真の大部分もアメリカ軍のものです。



Contents

Vol. 1: The First & Second Year

September 1939 – August 1940 • September 1940 – August 1941

Vol. 2: The Third & Fourth Year

September 1941 – August 1942 • September 1942 – August 1943

Vol. 3: The Fifth Year

September 1943 – August 1944

Vol. 4: The Sixth Year

September 1944 – August 1945

Vol. 5: A Year of Victory

September 1945 – August 1946 • Personalities of the War • Great Battle Scenes • Weapons of the War • Index to volumes 1–5

Vol. 6: Navy

A Review of the History of the U.S. Navy • The Navy Trains for War • Pearl Harbor • Battle of the Atlantic • The Battle of the Coral Sea • The Battle of Midway • Women in the Service • Victory at Guadalcanal • The Invasion of North Africa • The Invasion of Sicily • The Battle for Tarawa • The Capture of Kwajalein • The Invasion of Normandy • The Battle for the Marianas • The Battle of the Philippine Sea • The Invasion of Southern France • The U.S. Coast Guard in World War II • The Battle for Leyte Gulf • U.S. Naval Group, China • The Battle for Iwo Jima • The Okinawa Campaign • The Last Days of the Japanese Fleet • Surrender of Japan • Naval Awards • Statistics • The Post-War Navy • Ships of the Fleet • Biographical Notes • Index

Vol. 7: Air Force

The Army Air Forces Spreads Its Wings • Training the Air Force Team • The War-Time Air Transport Command • Air War in the China-Burma-India Theater • Battlefield in the Mediterranean Skies • Heavy Bomber Program • The Long Road to Pacific Victory • Radar and Its Use in War • Strategic Air Power over Europe • Tactical Air Power in Europe • Island Hopping to Tokyo • Sinews of Air Power • Superfort Warfare in the Pacific • U.S. Strategic Bombing Survey European and Pacific War • Congressional Medal of Honor Winners • The Air Force of the Future • Air University • Biographical Notes • Index

Vol. 8: Marines Corps

Mobilizing the Marine Corps for World War II • Guadalcanal • Tarawa • The Marianas Campaign • Iwo Jima • The Okinawa Campaign • Marine Corps Aviation • Congressional Medal of Honor Winners • The Marine Corps of the Future • Biographical Notes • Index

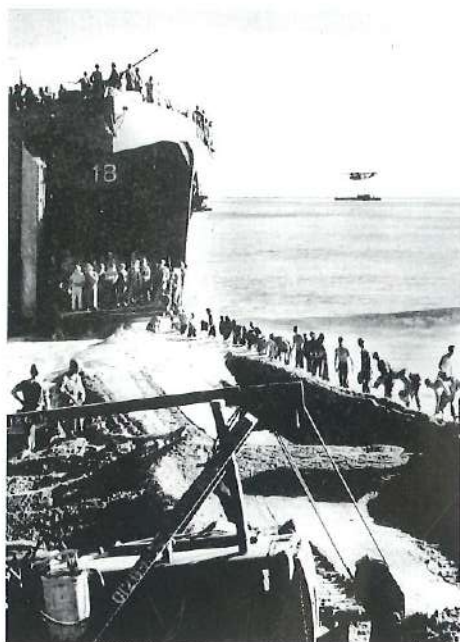
Vol. 9: Ground Forces

The War in the Solomons • The War in the Mediterranean Theater • The War in the Central Pacific • From D-Day to the Ardennes • The Battle of the Bulge • The Final Battle for Germany • The War in the CBI • The War in the Southwest Pacific • Congressional Medal of Honor Wimmers • Biographical Notes • Index

Vol. 10: Service Forces

The Chemical Warfare Service • The Quartermaster Corps • The Ordnance Department • The Transportation Corps • The Corps of Engineers • The Signal Corps • The Army Medical Department • The Army Nurse Corps • The Women's Medical Specialist Corps • The Women's Army Corps • Biographical Notes • Index





【シリーズ新刊!】

Athena Sources in the History of the World War II

PICTORIAL HISTORY OF THE WAR

A Complete and Authentic Record in Text and Picture

第1回配本

Part 1 978-4-86340-286-7

78,000円+税

Part 2 978-4-86340-287-4

78,000円+税

2019年度刊行開始!第二次世界大戦の進捗を伝えるイギリスの週刊誌。写真多数!以降続刊、全8回15冊。

【既刊】

Athena Sources in the History of the World War I

The "Manchester Guardian" History of the War

全9巻

978-4-86340-148-8

270,000円+税

現在のガーディアン紙が当時記述した戦争記録。半年ごとに状況を整理して解説。

The War Illustrated: Album de Luxe

全10巻

978-4-86340-160-0

285,000円+税

大衆紙デイリー・メール傘下の出版社が出した週刊誌の再編集豪華版。センセーショナルな記事と大量の図版。

The Great War... I Was There!

全6巻

978-4-86340-161-7

176,000円+税

終戦からおよそ20年後に出された戦争体験談集。週刊全51号をまとめて復刻。著名人手記多数。

The Illustrated War News

配本:第1回-第8回

724,000円+税

グラフィック報道の嚆矢イラストレイテッド・ロンドン・ニュースによる、プロパガンダ色の濃い写真集的な戦争特集週刊誌。

Pictorial Sources on the United States in World War I

U.S. Official Pictures of the World War + The United States Navy in the World War

全2巻

86,000円+税

Forward - March! (Vol. 1+Vol. 2)

合本全1巻

42,000円+税

Art and the Great War + The War in Cartoons

合本全1巻

45,000円+税

第一次世界大戦におけるアメリカの貴重な写真・図画資料を復刻。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】

「よい戦争」のビジュアルな記憶

赤木 完爾 ● 慶應義塾大学名誉教授

第二次世界大戦が、アメリカが世界大国となる契機となったことは誰しも認める歴史的事実であろう。なかでも「武器貸与法」に基づく反枢軸国への軍事・経済援助は、当初イギリスから始まりソ連、フランス、中国に及び、やがて枢軸国と戦う 38 カ国に援助対象が拡大された。戦時に大拡張をみたアメリカの産業力を基盤とする大きな影響力は、戦争の経過とともに様々な形で全世界に浸透する結果となり、それがアメリカに世界的大国の地位をもたらした。

アメリカにとって戦争は、1941年12月7日の日本の真珠湾攻撃から始まったが、程なくドイツが対米宣戦布告をしたために、戦争は太平洋と大西洋の両洋で展開されることとなった。作戦が展開された舞台も、大西洋、地中海、北アフリカ、太平洋、中国、さらに中東、インド、南アジア、東南アジアにおよぶこととなる。アメリカは大戦略としてはドイツの打倒を優先する方針を立てつつも、その莫大な生産力によって、両洋にわたるグローバルな戦争を事実上同等に激しく戦った。

勝利の記憶であれ、敗北の記憶であれ、記憶はすぐれて利己的なものである。集団の場合、記憶する単位は国家やそれを構成する国民と言うことになるであろう。第二次世界大戦のアメリカの場合、戦争が終結をみた1945年の段階で軍務に従事していた人々は1200万人を超える。総人口が1940年の国勢調査で1億3000万人あまりであったことを顧みれば、人口のほぼ1割の人々が何らかの形で軍務についていたことになる。このことはとりもなおさず、大戦が等しく国民の記憶として残る結果をもたらした。

さらに、アメリカについては、本土はもとより戦場にならず、戦災は皆無であり、戦争の人的損害も約42万人にとどまった。これは2700万人といわれるソ連の人的損害と比較すれば、すこぶる軽微なものであった。こうした事情もあって、概してこの戦争が、多くのアメリカ人にとって、「よい戦争」(“Good War”) と思い起こされることの多い、歴史的記憶になったのであろう。『よい戦争』とはスタッズ・ターケルの1985年にピューリッツァー賞を受賞した口述歴史を編集したノンフィクションのタイトルである。

このたびアティーナ・プレスから復刻刊行される *Pictorial History of the Second World War* は、1944年から1949年にかけてニューヨークで出版された全10巻におよぶ写真を中心とする第二次世界大戦の歴史である。ターケルの書籍が言葉で残された記憶の集積であるとするならば、さしずめこれは写真映像記録の集積である。

第1巻から第5巻までは、戦争の経過をすべての戦域にわたって時系列的に取り扱っている。第6巻から第10巻は、海軍(沿岸警備隊を含む)、陸軍航空部隊、海兵隊、陸軍地上部隊、その他の様々な支援兵種ごとに、それぞれの戦争中の事績が写真とともに編集されている。

戦争を時系列で扱った第1巻から第5巻は、戦局の推移を、政治的な解釈を排除したごく客観的な解説とともにあくまで写真集として編集されている。1939年のドイツのポーランド侵襲から始まって、ソ連-フィンランド戦争、ドイツのデンマーク、ノルウェー攻撃、そして戦争2年目のフランス降伏、

地中海におけるイタリアとイギリスの戦い、ドイツのバルカン半島への侵襲、独ソ戦の勃発、さらに戦争中期の諸戦役(ロシア戦線、北部フランス、中国・ビルマ・インド戦域、太平洋正面など)から、ヨーロッパでの勝利、日本の降伏に至るまで、グローバルな戦争が偏りなく整理されている。

シリーズ後半の5巻は、大戦中様々な軍種に属した人々に捧げられている。本書によれば、海軍、海兵隊、沿岸警備隊に従軍した人々は350万人、陸軍航空部隊が250万人、海兵隊が60万人、陸軍地上部隊が400万人、陸軍支援部隊(工兵、輸送、需品、補給、通信、軍医、婦人部隊など)が300万人であり、各巻ではそれぞれ当時の最高責任者であった、ジョージ・マーシャル(陸)、アーネスト・キング(海)、ヘンリー・アーノルド(空)らが序文を寄せている。最初の5巻に比べると、戦争に直接参加した人々のために編集されている。

これらの巻で興味深いのは、代表的な戦いをエピソードとして取り上げ、その戦いの現場指揮官が解説を書いて、それに関わる写真映像が掲載されていることである。たとえば、ガダルカナル反攻をアレキサンダー・ヴァンデグリフト(当時、第1海兵師団長)、フィリピン海海戦(マリアナ沖海戦)を第5艦隊司令長官であったレイモンド・スプルーアンス海軍大将、1944年のクリスマスの「バルジの戦い」をベルギーでドイツ軍に包囲された第101空挺師団を臨時に指揮したアンソニー・マッカリア陸軍少将が解説している。さらに日本ではほとんど知られることのない、中国で情報活動に従事したアメリカ海軍部隊まで、その指揮官であったミルトン・マイルズ海軍少将の解説とともに紹介されている。

総力戦としての第二次世界大戦は女性の社会進出を促進し、多くのアメリカ女性が軍務に従事したが、各軍の婦人部隊(海軍看護師、海



軍婦人部隊、沿岸警備隊婦人部隊、陸軍婦人部隊等)の事績もこれらの巻で網羅されている。さらに、アメリカ軍の最高位の勲章である、議会名誉勲章の受賞者の一覧が、それぞれに掲載されているのも、シリーズ後半の愛国的な編集姿勢をうかがわせる。

本シリーズ全10巻は、世界戦争の時代の、そして「よい」記憶としての国民的経験を、さらには、こうした写真映像を通じてこの戦争を回顧し反芻していた当時のアメリカの人々の興味を追体験できる、きわめて貴重な資料である。

戦争の記憶を創る —— 第二次世界大戦における視覚資料の役割

高田 馨里 ● 大妻女子大学准教授

第二次世界大戦の主要参戦国のなかで、唯一本土が戦場にならなかったアメリカ合衆国の人々にとって、戦争は、全米各地の軍事基地や、遠い海の向こうの戦線に送られた家族を案じる戦争でもあった。その関心にこたえるべくアメリカの新聞雑誌メディアは、世界各地の戦線の様子や兵士たちを撮影した写真を読者に届けた。それらは多くの場合、軍や政府機関の検閲を受けるか、もしくは新聞雑誌が独自に設定した自主検閲によって選ばれた写真だった。アメリカ合衆国で人々に共有が促された戦争の「公的記憶」は、注意深く選ばれた写真、すなわち「記録」によって創られたといっても差し支えないだろう。しかし、そのあまりにも膨大な写真や映像のなかには、検閲を免れた、もしくは当時の検閲においては問題にならなかったであろう「真実の戦争」の姿がしばしば現れることもある…。

今回出版される *Pictorial history of the Second World War* は、全10巻2部構成からなる大著である。前半5巻は、大戦勃発から戦争終結までを大戦の時系列に「記録」したもの、後半6巻以降は、海軍、陸軍航空軍、海兵隊、地上部隊、支援部隊を個別に扱った軍隊史である。写真は、アメリカ合衆国、イギリス、ロシアなどの連合政府機関がリリースしたものや通信社が配信したものである。ここではおもに前半のシリーズを紹介したい。

第1巻から3巻は、1944年に編まれた。第1巻は、大戦勃発からヨーロッパ戦線の拡大と新たな戦争手段である空爆被害の写真や航空写真を多く掲載している。第2巻で描かれるのは日米開戦による戦争の世界化である。時系列での「記録」ゆえに、ページをめくると世界各地に拡散する戦場イメージ—ハワイの真珠湾攻撃に次いで掲載される雪に覆われたソ連戦線の膨大な「死」—に当惑を覚えるが、これこそが第二次世界大戦だったのだ。第3巻は、世界規模の破壊と殺戮を「記録」する一方で連合国の進軍を描く。そこでは戦争に貢献する女性兵士、黒人兵士、植民地の兵士たちも登場する。

1946年に編まれた第4巻は、連合国による反攻と勝利を描きながら同時に、処刑される枢軸国側の人々、ナチ協力者など、勝利の背後で行使された暴力を取り上げる。さらに検閲から逸脱した兵士や民間人、子供の「死」が並ぶ。それに対応するかのよう死を悼む人々、生き残った女性や

子供たちのイメージが取り上げられている。第5巻は激化する対日戦争から終戦後の世界を膨大な写真によって「記録」する。とりわけ印象的だった写真は、沖縄戦終結後に行われたとみられる米軍の追悼集会である。粗末な木の十字架の前に何百人もの兵士が首を垂れて祈りをささげている。



THE LIVING DEAD. Troops stand with bowed heads as soldiers are laid to rest in the remains of Okinawa. Although the Okinawa campaign was commonly taken, only about 7,000 Troops

Army soldiers were killed compared to about 22,000 Japanese. About 22,000 men of the Tenth Army

死を悼む写真のなかでもとりわけ印象に残ったのがこの写真だ。さらに、広島に原爆を投下した3人の爆撃機搭乗員たちの顔写真も掲載しているが、その表情は何を暗示するものだろうか。

本書は、膨大な写真によるアメリカ人にとっての第二次世界大戦の「記録」であるといえるが、一方で、ヨーロッパ史、アジア史、日本史の研究者にとっても検討すべき資料を提示するものである。時系列で整理された戦争の展開は、我々に改めて世界戦争の在り方を問いかけるものといえるだろう。また、本書の編集部が記しているように、きわめて重要な局面であっても、写真の不存在もしくは非公開によって掲載できないことがあることも、我々は見落としてはならないだろう。

本書は、第二次世界大戦期に大量に撮影された写真のなかから、政府によって、通信社によって、さらには出版社によって選ばれた写真による「記録」が、「公的記憶」を創り出すメカニズムについて検討すべき題材を与えてくれるものともいえる。アティーナ・プレスによる、貴重な資料であるといえる本書の復刻を心より歓迎したい。

表象される歴史、記録される情動

舌津 智之 ● 立教大学教授

第二次世界大戦をめぐるアメリカの文学は、戦時中に書かれたサローヤンの『ヒューマン・コメディ』をはじめ、戦後ほどなく出版されたジョン・ハーシーの『ヒロシマ』やメイラーの『裸者と死者』、そしてポストモダンの一時代を画したヴォネガットの『スローターハウス5』やピンチョンの『重力の虹』など、いずれもア

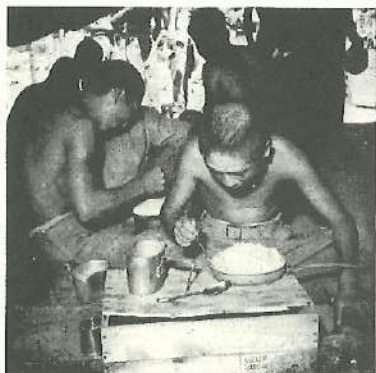
メリカという国家の暴力性を批判的に見据えるものである。それに対し、本書はあくまでアメリカ軍目線の写真集であり、たとえばヒロシマやナガサキの写真は、焼け野原の遠景であり、そこに原爆の残虐さを示すような人体は写っていない。また、「分別ある^{ジャップス}日本兵」と見出しを付された慶留間列島（沖縄）の写真には、日用品の包みを抱えてアメリカ軍に投降する日本兵たちの姿、そして彼らが人道的に食事を与えられている様子が記録され、「天皇のために命を捨てるサムライ流儀」を疑問視する説明文が添えられている。無論、あらゆる表象の背後には意図や意思があり、客観的な記録というものは存在しない。大量殺戮行為を正当化する自国のイデオロギーに対し、多くのアメリカ人作家が疑問を突きつけた——あるいは突きつけ続ける——その背景にあった歴史の細部が本書の中から立ち現れてくる。一方、敗戦をめぐる日本のパブリック・メモリーにおいて、戦死した同胞の悲劇が強調されることは言うまでもない。しかし、上記の写真が伝えるような日本兵の姿——軍国の教えを捨てて戦場から逃げ出した「非国民」の決意——のうちにこそ、すぐれて文学的な情動が宿るのではあるまいか。本書は、日米関連の記録にも多くの頁を割いており、我々読者はそこから、戦勝国と敗戦国の心理ドラマをそれぞれに相対化する視点を得ることができるはずだ。文学／表象系の研究にも資するであろう貴重な一次史料である。

Japs give up at Kerama Retto

May 4, 1945



SENSIBLE JAPS. A group of Japanese soldiers, tired of the fight, climb out of the rocks and bushes at one of the islands of Kerama Retto, near Okinawa, to give themselves up to the crew of a picket boat. In their bundles they carried money, razors, diaries, toilet articles, photographs and cigarette holders. There were no mass surrenders in the Pacific but as time went on more and more of the Japs seemed willing to give up rather than hazard the doubtful reward of dying for the Emperor in Samurai fashion. The full dinner pail, below, had far more charm for these Japs than the honors paid the dead in distant Japan. American propaganda leaflets as well as American power seemed to be having a growing effect on the Bushido spirit.





America passes the lease-lend bill

March 9-11, 1941

